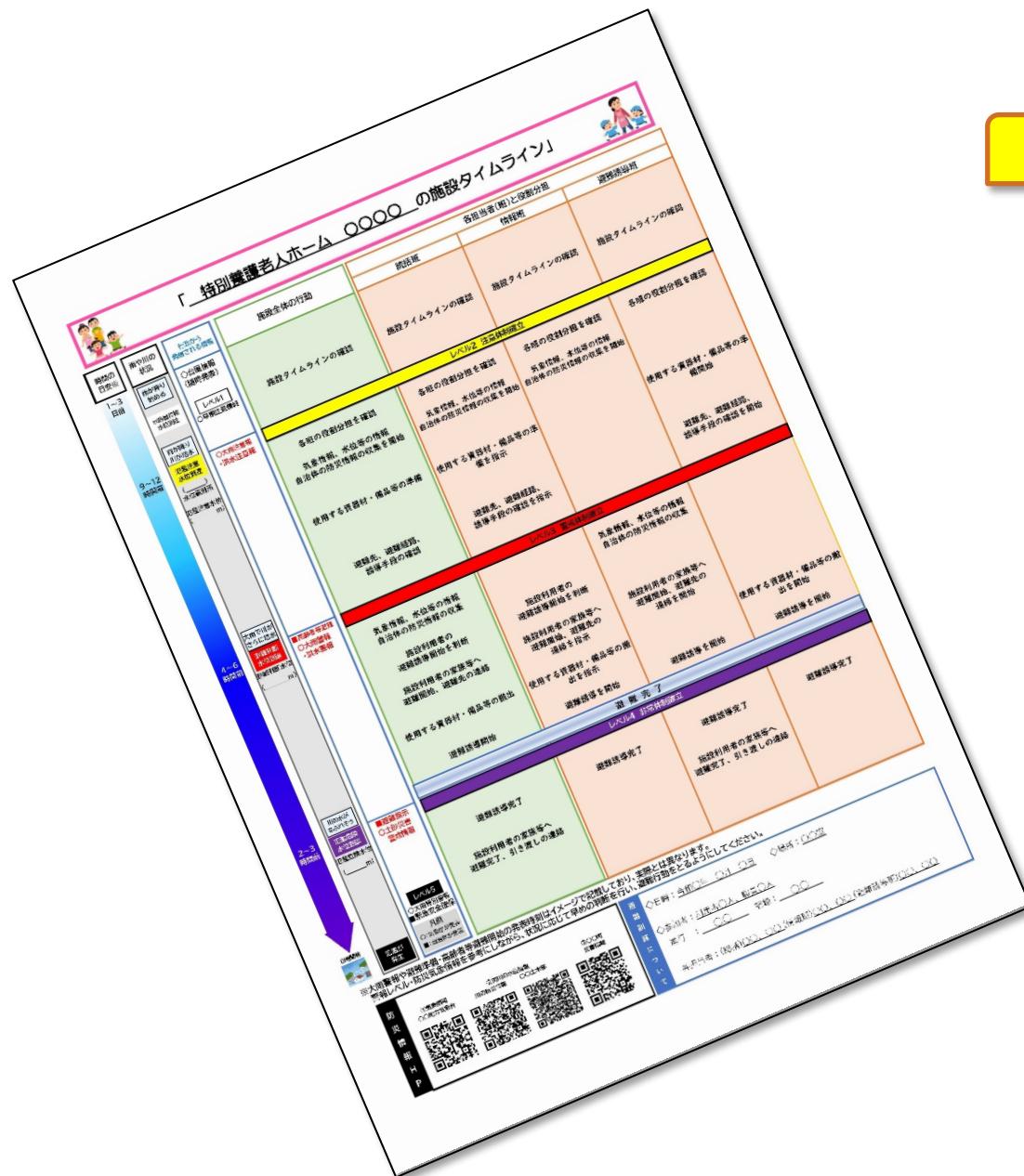


施設タイムライン



レベル2



レベル3



レベル4

施設タイムライン説明書

■	施設タイムラインによる災害リスクへの備え	1
■	(Ⅰ)施設タイムラインとは	2
■	(Ⅱ)施設タイムラインのつくりかた	3
■	施設タイムラインを活用した避難訓練の実施	4
■	施設タイムラインを活用した避難訓練の流れ	5
■	施設タイムラインを活用した避難訓練の実施手順	6
■	ステップ1 訓練の準備について	6
■	ステップ2 訓練の当日運営について	7
■	ステップ3 訓練後の対応について	8

施設タイムラインツール

■	施設タイムラインツール様式集	9
■	様式①：台風が近づいているとき、前線等によって大雨が長引くとき	
■	様式②：短時間で急激な強雨が発生したとき	
■	様式③：大規模な地震で津波が発生したとき	

*** 施設タイムラインによる災害リスクへの備え ***

施設タイムラインによる災害リスクへの備え



(1) 施設タイムラインとは

- 「施設タイムライン」とは、災害リスクに備えた施設職員の行動内容「いつ、誰が、何をするか」をわかりやすく整理したものです。
- 「施設タイムライン」を整理することで、**災害に備えた訓練の実施**にも役立てることができます。
- 作成した「施設タイムライン」を施設の目立つ所に掲示しておくことで、災害に備えて、**すぐにとるべき行動を確認**できます。

避難確保計画

社会福祉施設
避難確保計画

対象災害：水害（洪水）

【施設名： _____】

____年 ____月 作成



災害が発生しそうなとき、
避難確保計画を確認しても、
すばやく行動できるか、
心配・・・

「施設タイムライン」
として1枚で整理

「いつ」
行動するか



ひと目で
よくわかるね！

施設タイムライン

台風が近づいているとき、前線等によって大雨が長引くとき
「特別養護老人ホーム ○○○○ の施設タイムライン」

時間の目安※	雨や川の状況	行政から発信される情報	施設全体の行動	各担当者(班)と役割分担		
				総括	情報班	避難誘導班
3日前	雨が降り始める	○台風情報(随時発表)	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認
2日前	水防設備機水位到達	○早期注意情報(賞報の可能性がある)				
1日前	雨が降り川が増水 氾濫注意水位到達	○大雨注意報 ○洪水注意報 ○高潮注意報	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を指示	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始
半日前	水位観測所 氾濫注意水位(m)		使用する資器材・備品等の準備 避難先、避難経路、 誘導手段の確認	使用する資器材・備品等の準備を指示 避難先、避難経路、 誘導手段の確認を指示	使用する資器材・備品等の準備を開始 避難先、避難経路、 誘導手段の確認を開始	使用する資器材・備品等の準備を開始 避難先、避難経路、 誘導手段の確認を開始
4～6時間前	大雨で川がせうに増水 避難判断水位到達	○高齢者等避難 ○大雨警報 ○洪水警報 ○氾濫警戒情報 ○大雨警報 ○土砂災害 ○高潮注意報	気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集 施設利用者の 避難誘導開始を判断	施設利用者の 避難誘導開始を判断 施設利用者の家族等へ 避難開始、避難先の 連絡を指示	施設利用者の家族等へ 避難開始、避難先の 連絡を開始	使用する資器材・備品等の 搬出を開始
2～3時間前	川の水が あふれそ 氾濫危険水位到達	■避難指示 ○氾濫危険情報 ○高潮特別警報 ○土砂災害 警戒情報 ○高潮警報 ○記録的短時間 大雨情報	使用する資器材・備品等の搬出 避難誘導開始	使用する資器材・備品等の搬出を指示 避難誘導を開始	避難誘導を開始	避難誘導を開始
0時間前	氾濫危険水位(m) 氾濫発生	■緊急安全確保 ○大雨特別警報 ○氾濫発生情報 ■高潮氾濫 発生情報 凡例 ○：国が発表 ■：自治体が発表	施設利用者の家族等へ 避難完了、引き渡しの連絡	施設利用者の家族等へ 避難完了、引き渡し の連絡		

「誰が」
行動するか

役割分担の例

■総括
(施設管理者等)

【役割】
避難準備～終了の指揮・判断
など

■情報班

【役割】
避難に必要な情報の収集と
関係者への共有 など

■避難誘導班

【役割】
施設利用者の誘導や
保護者への連絡・引き渡し
など

「何をするか」

※大雨注意報や避難準備・高齢者等避難開始等の発表時刻はイメージで記載しており、実際とは異なります。
警戒レベル・防災気象情報を参考にしながら、状況に応じて早めの判断を行い、避難行動をとるようにしてください。
※記録的短時間大雨情報が発信された場合、状況に応じて、更なる配慮が必要です。

①気象情報 ○○地方気象台 ②河川の水位情報 ○○県土木部 ③○○市 災害情報

防災情報HP

避難訓練日時
◇日時：令和○年○月○日 ◇場所：○○室
◇参加者：○○
進行：(総括)○○ 記録：○○
各担当者：(情報班)○○、○○ (避難誘導班)○○、○○、○○

施設タイムラインによる災害リスクへの備え



(II) 施設タイムラインのつくりかた

「避難確保計画」等を参考に、災害時の主な行動や各担当者の役割分担の内容を、「施設タイムライン」に記載しましょう。

避難確保計画

■ステップ1：避難確保計画の確認

避難確保計画の中に記載されている行動について、「いつ、誰が、何をするか」という点から探してみましょう。
※どんな行動が必要か、職員の皆様で意見交換してみましょう。

(例) 「国土交通省 避難確保計画ひな形」を使っている場合は、様式2などに行動が記入されています。

体制確立の判断時期	体制	活動内容	対応班(要員)
以下のいずれかに該当する場合 ・洪水注意発表 ・〇〇川(〇〇地点) 注意発表	注意体制 レベル2	洪水予報等の情報収集	総務・情報班(情報収集伝達要員)
以下のいずれかに該当する場合 ・避難準備・高齢者等避難開始の発令 ・洪水警戒発表 ・〇〇川(〇〇地点) 注意警戒発表	警戒体制 レベル3	洪水予報等の情報収集 使用する資機材の準備 保護者・家族等への事前連絡 周辺住民への事前協力依頼 要配慮者の避難誘導	総務・情報班(情報収集伝達要員) 避難誘導班(避難誘導要員) 総務・情報班(情報収集伝達要員) 総務・情報班(情報収集伝達要員) 避難誘導班(避難誘導要員)
以下のいずれかに該当する場合 ・避難勧告又は避難指示(緊急)の発令 ・〇〇川(〇〇地点) 注意危険発表	非常体制 レベル4	施設内全体の避難誘導	避難誘導班(避難誘導要員)

※意見交換の方法(例)

メモ用紙への書き出しによる意見交換

ホワイトボードへの書き出しによる意見交換

施設タイムライン(洪水時の例)

■ステップ2：各担当者(班)の整理

防災行動に関して役割を担っている各担当者(班)について、施設タイムラインの □ に記載しましょう。
※記載例に示す班構成は、イメージです。施設で作成した避難確保計画に応じて、それぞれ設定してください。

■ステップ3：施設全体の行動と役割分担の整理

・避難確保計画から探した行動を、どのタイミングで実施するか考えながら、① に記入しましょう。

・①の各項目に対する各担当者の役割分担を、② に記載しましょう。

※避難確保計画の記載だけでは分かりづらい時、**行動内容を追記**しましょう。

■ステップ4：防災情報HPの整理

気象情報・水位情報等、避難情報の確認先を □ に記載しましょう。
※二次元コードを作成し貼ることで、素早く情報を入手できます。

参考：災害情報収集に役立つホームページ

- ・気象情報：あなたの街の防災情報(<https://www.jma.go.jp/bosai/>)
- ・水位観測所・水位の情報：水位観測所：川の防災情報(<https://www.river.go.jp/>)
- ・避難情報：各自治体の防災情報ホームページ

施設名 の施設タイムライン

時間 の 目安	雨や川の 状況	行役から 発信される 情報	施設全体の 行動	各担当者(班)と役割分担		
				統括班	情報班	避難誘導班
1~3 日	雨が降り 始める	〇自衛情報 (随時発表)	施設全体の行動	①	施設全体の行動	②
9~12 時	雨が降り 川が濁る	〇大雨注意 警報 〇大雨注意 警報 〇大雨注意 警報				
4~6 時	大雨で川が さらさら	〇大雨警報 〇大雨警報 〇大雨警報				
2~3 時	川の水位 あふれそう	〇避難指示 〇土砂災害 警戒情報	避難完了		避難完了	

災害が発生する前(警戒レベル4程度)には避難が完了しているようにしましょう

高年齢者等避難の情報は、要配慮者とその支援者が避難を開始する合図になります

施設の位置より上流の水位観測所とその水位を記載することで、避難判断の目安となります

あなたの街の防災情報 川の防災情報

*** 施設タイムラインを活用した避難訓練の実施 ***

施設タイムラインを活用した避難訓練の流れ

- ・浸水想定区域内の要配慮者利用施設の施設管理者は、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が**義務**となっています。
- ・いざという時に、施設利用者と職員の皆さんが無事に避難できるよう、施設の災害リスクを想定した避難訓練を**定期的**に実施しましょう。

避難確保計画の作成

■ステップ1 訓練の準備

① 施設タイムラインの整理

② 訓練概要の整理、周知

- ・ 訓練の種類を決定
- ・ 日時、場所、参加者の整理など

③ 場所の確保、備品の準備

■ステップ2 訓練の当日運営

① 訓練実施可否の判断

② 訓練会場の設営

③ 訓練の実施

④ 振り返り



■ステップ3 訓練後の対応

① 施設タイムラインの再確認、掲示

② 避難確保計画の修正、再提出
避難訓練実施の報告



■施設タイムラインの活用イメージ

- ・作成したタイムラインに、実施する「訓練の種類」や「訓練日時、場所」、訓練で確認したい事項など、簡単に手書きで記載し、時系列に従った避難訓練を実施。

「特別養護老人ホーム ○○○○ の施設タイムライン」

時間の目安※	雨や川の状況	行政から発信される情報	施設全体の行動	各担当者(班)と役割分担		
				統括班	情報班	避難誘導班
1~3 日前	雨が降り始める 水防団待機水位到達	○台風情報 (随時発表) レベル1 ○早期注意情報	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認
9~12 時間前	雨が降り川が増水 氾濫注意水位到達 氾濫注意水位観測所 (6.30m)	○大雨注意報・洪水注意報	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始 使用する資器材・備品等の準備 避難先、避難経路、誘導手段の確認	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始
4~6 時間前	大雨で川がさらに増水 避難判断水位到達 (8.50m)	■高齢者等避難 ○大雨警報・洪水警報 14:15	施設利用者の避難誘導開始を判断 施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡 使用する資器材・備品等の搬出 避難誘導開始	施設利用者の避難誘導開始を判断 施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡を指示 使用する資器材・備品等の搬出を指示 避難誘導を開始	施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡を開始 (搬出する備品等を確認)	施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡を開始 避難誘導を開始
2~3 時間前	川の水があふれそう 氾濫危険水位到達 氾濫危険水位 (9.10m)	■避難指示 ○土砂災害警戒情報	避難誘導完了 施設利用者の家族等へ避難完了、引き渡しの連絡	避難誘導完了	避難誘導完了	避難誘導完了
0 時間前	氾濫が発生	レベル5 ○大雨特別警報 ■緊急安全確保 凡例 ○:気象庁が発表 ■:自治体が発表	避難完了	避難完了	避難完了	避難完了

① 実施する避難訓練の内容を線で囲む

③ 訓練時間や訓練での確認事項等を記載

② 「避難訓練について」に、訓練の日時、場所、参加者を記載

※大雨警報や避難準備・高齢者等避難開始の発表時刻はイメージで記載しており、実際とは異なります。警報レベル・防災気象情報を参考にしながら、状況に応じて早めの判断を行い、避難行動をとるようにしてください。

防災情報HP	①気象情報 ○地方気象台 ②河川の水位情報 川の防災情報 ○土木部 ③町災害情報 ○災害情報	避難訓練について ◇日時: 令和4年2月5日 ◇場所: 施設内 ◇参加者: 利用者 15人、職員 5人 進行: 佐藤 記録: 田中 各担当者: (総括) 木村 (情報班) 斎藤 (避難誘導班) 鈴木
--------	--	--

施設タイムラインを活用した避難訓練の実手順

■ステップ2 訓練の当日運営について

① 訓練実施可否の判断

- 当日の状況による訓練の実施可否を判断しましょう（天候や職員・利用者の状況等）。
- 必要に応じて、関係者へ伝達してください。



② 訓練会場の設営

- 訓練参加者や訓練内容に応じて、備品を配置してください。
- 必要な備品や記録用の機器を設置しましょう。



③ 訓練の実施

- 施設タイムラインから選択した訓練について、実際の災害を想定し、各班の防災行動を確認しながら、訓練を実施しましょう。
- 要配慮者の健康には最大限に配慮してください。



④ 振り返り

- 訓練後は良かった点や改善点等について、訓練参加者で振り返りを行いましょう。

<ポイント>

各担当者 と 主な役割

訓練を補佐する参加者

■ 進行係

- 訓練全体の司会・進行



開会時の説明

- 訓練の目的や流れ、各担当者の役割、配布資料、留意点など

訓練内容

※訓練毎に①～⑤の順で実施

① 訓練開始の声掛け

「～訓練を開始します」

②-1 情報の付与

- 施設タイムラインをもとに、防災行動のきっかけとなる情報付与を実施

「●●情報が発表されました」

⑤ 訓練終了の声掛け

「～訓練を終了します」

訓練の実施

訓練参加者

■ 施設管理者

- 施設タイムライン
ハザードマップ
訓練用品 等の準備
- 各班へ防災行動の指示

開会の挨拶

■ 各班員

- 施設管理者の指示で避難行動の実施、内容の報告
- 改善点などの意見出し

各自の役割確認

- 訓練内容、各自の役割を確認

訓練を補佐する参加者

■ 記録係

- 撮影や時間計測
- 参加者意見、気づいた点のメモ

会場の様子を撮影

- 訓練前の会場準備の状況を撮影（次回参考用）



訓練の様子を撮影・記録

- 訓練風景を撮影（参加者・使用したものなど）
- パソコンを使った場合、画面の内容を記録

▼意見交換時の参考用

- 各訓練にかかった時間を計測
- スムーズにできなかったことなど、気付いた点をメモ

など

閉会の挨拶

- 訓練全体の総括

意見交換の進行

- 良かった点
- 避難時に問題になりそうな点、改善点
- 施設タイムラインの修正点など、参加者全員の発言を促す

「◎◎に関して、意見や課題等がありますでしょうか。●●班の○○さん、いかがでしょうか。……」

意見交換への参加

- 他の参加者との意見交換を実施



振り返り

訓練記録の報告

- 訓練にかかった時間
- その他気付いた点などを報告

内容の記録・保管

- 各参加者の意見
- 各訓練でメモした意見等の共有
- 次回以降の参考のため記録を保管



施設タイムラインを活用した避難訓練の実手順

■ステップ3 訓練後の対応について

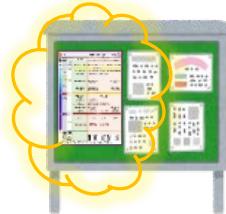
① 施設タイムラインの再確認、掲示

■施設タイムラインの修正

- 避難訓練の振り返り等を踏まえ、改善箇所については、施設タイムラインを修正しましょう。

■施設タイムラインの掲示や周知

- 施設タイムラインは、誰でも確認できるように、施設の目立つ場所に常時掲示しておきましょう。
- また職員や利用者に加え、家族へ配布するなど、周知しましょう。



② 避難確保計画の修正・再提出、避難訓練実施の報告

■避難確保計画の修正・再提出

- 施設タイムラインの修正や避難訓練の振り返り結果を踏まえて、改善箇所については避難確保計画を修正しましょう。
- 計画を修正した場合は、市町村に再提出しましょう。



■避難訓練実施の報告

- 避難訓練の実施結果は、とりまとめて市町村へ報告しましょう。



<ポイント>

- 今回の訓練に参加した職員が、水害時に必ずしも施設にいるとは限りません。
- 再度、「初めて施設タイムラインを見た職員が実際に行動できるか」という視点で、「いつ、誰が、何をするか」を検討し、施設タイムラインを修正しましょう。

<ポイント>

- 訓練結果を踏まえて、避難確保計画内の、防災体制確立の判断時期、活動内容や役割分担を見直して、計画を修正しましょう。
例) 訓練の対応に遅れが生じた場合・・・
・避難のタイミングの改善
・対応者の重複・役割・人員数の改善など
- 訓練内容に対応する箇所やその他気付いた点などがあれば、計画を改善しましょう。
例) 情報収集の収集方法(川の防災情報、都・県土木部HP等)の追加 など

【防災体制確立の判断時期及び役割分担】

体制確立の判断時期	体制	活動内容	対応班(要員)
	注意 レベル2 体制確立		
	警戒 レベル3 体制確立		
	非常 レベル4 体制確立		

避難確保計画の様式2

<ポイント>

- 避難確保計画の修正内容に応じ、改善内容等を追記し、訓練実施結果を作成しましょう。
避難訓練報告様式は、以下のサイトに掲載されています。
「要配慮者利用施設の浸水対策」
(国土交通省)



<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/jouhou/jieisuibou/bousai-gensai-suibou02.html>

要配慮者利用施設の避難確保計画に基づく訓練実施報告書

令和4年 2月 20日

報告者(所有者又は管理者)
住所 埼玉県〇〇市〇〇町〇〇-〇〇
施設の所有者名又は管理者名 〇〇〇〇
施設名(電話番号等) 〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

別添のとおり水防法の規定に基づく避難訓練を実施しましたので報告します。

訓練実施日時	施設利用者	従業員
令和4年 2月 5日 〇〇時 ~ 〇〇時	15人	5人

訓練の内容	実施訓練	訓練内容
訓練の内容	<input type="checkbox"/>	【防災体制の確立】 緊急情報等の収集と施設内での共有、避難判断までの訓練
	<input type="checkbox"/>	初期訓練・職員参画
	<input type="checkbox"/>	初期訓練・情報伝達・指示
	<input type="checkbox"/>	避難準備訓練 資器材・備品等の準備
	<input type="checkbox"/>	避難準備訓練 移動に向けた事前準備
	<input checked="" type="checkbox"/>	非常体制訓練 施設内の避難誘導
	<input type="checkbox"/>	非常体制訓練 施設外への避難誘導 避難光を記入してください。()

訓練の内容
※写真を添付すること
(1枚程度)

訓練実施報告書(様式例)

*** 施設タイムラインツール 様式集 ***

➤ ご自身の施設の災害リスクに応じて、「施設タイムライン」のひな型をもとに、**内容を書き換えて活用**しましょう。

台風が近づいているとき、前線等によって大雨が長引くとき

施設周辺や避難路、避難先に
高潮リスクが想定されていない場合

施設周辺や避難路、避難先に
土砂災害リスクが想定されていない場合

時間の目安※	雨や川の状況	行政から発信される情報
3日前	雨が降り始める	○台風情報(随時発表)
2日前	水防団待機水位到達	レベル1 ○早期注意情報(警報級の可能性)
1日前	雨が降り川が増水 氾濫注意水位到達 ()水位観測所 氾濫注意水位()m	○大雨注意報・洪水注意報 ○高潮注意報
半日前	大雨で川がさらに増水	
4~6時間前	避難半断水位到達 避難半断水位()m	■高齢者等避難 ○大雨警報・洪水警報 ○氾濫警戒情報 ○大雨警報(土砂災害) ○高潮注意報
2~3時間前	川の水があふれそう 氾濫危険水位到達 氾濫危険水位()m	■避難指示 ○氾濫危険情報 ○高潮特別警報 ○土砂災害警戒情報 ○高潮警報 ○記録的短時間大雨情報
0時間前	氾濫が発生	レベル5 ■緊急安全確保 ○大雨特別警報 ○氾濫発生情報 ○高潮特別警報 ○土砂災害発生情報 凡例 ○：国が発表 ■：自治体が発表

必要な情報以外は削除して使用してください。

【様式への記載例：高潮リスクが想定されていない場合】

施設全体の行動		各担当者(班)と役割分担		
		総括	情報班	避難誘導班
3日前	雨が降り始める	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認
2日前	水防団待機水位到達			
1日前	雨が降り川が増水 氾濫注意水位到達 ()水位観測所 氾濫注意水位()m	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を指示	各班の役割分担を確認 各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始
半日前	大雨で川がさらに増水	使用する資器材・備品等の準備	使用する資器材・備品等の準備を指示	使用する資器材・備品等の準備開始
4~6時間前	避難半断水位到達 避難半断水位()m	気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集 施設利用者の避難誘導開始を判断 施設利用者の家族等へ 避難開始、避難先の連絡	施設利用者の避難誘導開始を判断 施設利用者の家族等へ 避難開始、避難先の連絡を指示	施設利用者の家族等へ 避難開始、避難先の連絡を開始 使用する資器材・備品等の搬出を開始
2~3時間前	川の水があふれそう 氾濫危険水位到達 氾濫危険水位()m	避難誘導開始	避難誘導を開始	避難誘導を開始
0時間前	氾濫が発生	施設利用者の家族等へ 避難完了、引き渡しの連絡	施設利用者の家族等へ 避難完了、引き渡しの連絡	

※自施設に被災リスクがなくても、施設の周辺や避難経路のリスクを必ず確認しましょう。

※記載例に示す班構成は、イメージです。
施設で作成した避難確保計画に応じて、それぞれ設定してください。

▶ ご自身の施設の災害リスクに応じて、「施設タイムライン」のひな型をもとに、**内容を書き換えて活用**しましょう。

短時間で急激な強雨が発生したとき

施設周辺や避難路、避難先に高潮リスクが想定されていない場合

施設周辺や避難路、避難先に土砂災害リスクが想定されていない場合

必要な情報以外は削除して使用してください。

時間の目安※	雨や川の状況	行政から発信される情報	時間の目安※	雨や川の状況	行政から発信される情報
3日前	雨が降り始める		3日前	雨が降り始める	
2日前	水防団待機水位到達	レベル1 ○早期注意情報(警報級の可能性)	2日前	水防団待機水位到達	レベル1 ○早期注意情報(警報級の可能性)
1日前	雨が降り川が増水 氾濫注意水位到達 () 水位観測所 氾濫注意水位()m	○大雨注意報・洪水注意報 ○高潮注意報	1日前	雨が降り川が増水 氾濫注意水位到達 () 水位観測所 氾濫注意水位()m	○大雨注意報・洪水注意報 ○高潮注意報
半日前		○大雨に関する気象情報(線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ)	半日前		○大雨に関する気象情報(線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ)
4~6時間前	大雨で川がさらに増水 避難判断水位到達 避難判断水位()m	■高齢者等避難 ○大雨警報・洪水警報 ○氾濫警戒情報 ○大雨警報(土砂災害) ○高潮警報	4~6時間前	大雨で川がさらに増水 避難判断水位到達 避難判断水位()m	■高齢者等避難 ○大雨警報・洪水警報 ○氾濫警戒情報 ○大雨警報(土砂災害) ○高潮警報
2~3時間前	川の水があふれそう 氾濫危険水位到達 氾濫危険水位()m	■避難指示 ○氾濫危険情報 ○高潮特別警報 ○土砂災害警戒情報 ○高潮警報	2~3時間前	川の水があふれそう 氾濫危険水位到達 氾濫危険水位()m	■避難指示 ○氾濫危険情報 ○高潮特別警報 ○土砂災害警戒情報 ○高潮警報
0時間前	氾濫が発生	レベル5 ■緊急安全確保 ○大雨特別警報 ○氾濫発生情報 ■高潮発生情報	0時間前	氾濫が発生	レベル5 ■緊急安全確保 ○大雨特別警報 ○氾濫発生情報 ■高潮発生情報

※自施設に被災リスクがなくても、施設の周辺や避難経路のリスクを必ず確認しましょう。
 ※顕著な大雨に関する気象情報や記録的短時間降雨情報は、観測雨量に応じて発令されるため、急激に天候変化した場合は、施設内に待機する等、状況に応じた判断が必要です。

【様式への記載例：土砂災害や高潮リスクが想定されていない場合】

短時間で急激な強雨が発生したとき

「特別養護老人ホーム ○○○○ の施設タイムライン」

時間の目安※	雨や川の状況	行政から発信される情報	施設全体の行動	各担当者(班)と役割分担		
				総括	情報班	避難誘導班
3日前	雨が降り始める		施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認
2日前	水防団待機水位到達	レベル1 ○早期注意情報(警報級の可能性)	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認
1日前	雨が降り川が増水 氾濫注意水位到達 () 水位観測所 氾濫注意水位()m	○大雨注意報・洪水注意報	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始 使用する資器材・備品等の準備	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始 使用する資器材・備品等の準備を指示	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始 使用する資器材・備品等の準備を開始	各班の役割分担を確認 気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集を開始 使用する資器材・備品等の準備を開始
半日前	大雨で川がさらに増水 避難判断水位到達 避難判断水位()m	○大雨に関する気象情報(線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ)	【線状降水帯の情報確認】 早めの避難移動を判断	【線状降水帯の情報確認】 早めの避難移動を指示	【線状降水帯の情報確認】 避難移動開始、家族への避難の連絡	【線状降水帯の情報確認】 資器材・備品の搬出開始
4~6時間前	大雨で川がさらに増水 避難判断水位到達 避難判断水位()m	■高齢者等避難 ○大雨警報・洪水警報 ○氾濫警戒情報 ○大雨警報(土砂災害) ○高潮警報	避難先、避難経路、誘導手段の確認	避難先、避難経路、誘導手段の確認を指示	避難先、避難経路、誘導手段の確認を指示	避難先、避難経路、誘導手段の確認を開始
2~3時間前	川の水があふれそう 氾濫危険水位到達 氾濫危険水位()m	■避難指示 ○氾濫危険情報 ○高潮特別警報 ○土砂災害警戒情報 ○高潮警報	気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集 施設利用者の避難誘導開始を判断 施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡 使用する資器材・備品等の搬出 避難誘導開始	気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集 施設利用者の避難誘導開始を判断 施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡を指示 使用する資器材・備品等の搬出を指示 避難誘導を開始	気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集 施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡を開始 避難誘導を開始	気象情報、水位等の情報 自治体の防災情報の収集 施設利用者の家族等へ避難開始、避難先の連絡を開始 使用する資器材・備品等の搬出を開始 避難誘導を開始
0時間前	氾濫が発生	レベル5 ■緊急安全確保 ○大雨特別警報 ○氾濫発生情報 ■高潮発生情報	施設利用者の家族等へ避難完了、引き渡しの連絡	施設利用者の家族等へ避難完了、引き渡しの連絡	施設利用者の家族等へ避難完了、引き渡しの連絡	施設利用者の家族等へ避難完了、引き渡しの連絡

※大雨注意報や避難準備・高齢者等避難開始等の発表時刻はイメージで記載しており、実際とは異なります。
 警戒レベル・防災気象情報を参考にしながら、状況に応じて早めの判断を行い、避難行動をとるようにしてください。
 ※線状降水帯による大雨に関する気象情報、顕著な大雨に関する気象情報、記録的短時間大雨情報が発信された場合、状況に応じて、更なる配慮が必要です。

防災情報HP

令和○年○月○日 場所: ○○室

参加者: ○○

進行: (総括) ○○ 記録: ○○

各担当者: (情報班) ○○、○○ (避難誘導班) ○○、○○、○○

※記載例に示す班構成は、イメージです。
 施設で作成した避難確保計画に応じて、それぞれ設定してください。

▶津波リスクが想定される場合は、地震発生直後の「津波からの避難」と、津波警報等解除後の「次の地震に備えた避難」について、「施設タイムライン」のひな型をもとに、内容を書き換えて活用しましょう。

大規模な地震で津波が発生したとき

「大規模な地震で津波が発生したとき」の施設タイムライン

時間の目安	行政から発信される情報	施設全体の行動	各担当者(班)と役割分担	
平常時				
地震発生	○緊急地震速報(随時発表)			
約2~3分後	○津波注意報 ○津波警報 ○大津波警報	避難開始(津波からの避難)		
津波発生		避難完了(津波からの避難)		
津波到達(災害発生)				
約24時間後	○津波注意報解除 ○津波警報解除 ○大津波警報解除	避難開始(次の地震に備えた避難)		
約1週間後		避難完了(次の地震に備えた避難)		

・震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
 ・津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
 ・津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
 ・津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。
 ・津波警報・注意報の解除後も次の地震が発生する可能性がありますので、地震発生に注意しながら、地震への備えを再確認しましょう。

防災情報HP

避難訓練について

◇日時: _____年__月__日 ◇場所: _____

◇参加者: _____

進行: _____ 記録: _____

各担当者: _____

※施設が津波浸水想定区域内にあり、近くに避難所がない場合等は、直ぐに「津波浸水想定区域外の高台」や「津波避難ビル」などに避難しましょう。
 ※大津波警報等が解除されるまでは、避難を続け、解除後は、地震発生に注意しながら、次の地震や浸水に備えて、避難場所などへ事前避難しましょう。

【記載例】

「大規模な地震で津波が発生したとき」特別養護老人ホーム ○○○○の施設タイムライン

施設全体の行動	各担当者(班)と役割分担		
	総括班	情報班	避難誘導班
施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認	施設タイムラインの確認
各班の役割分担を確認 気象庁の地震情報、津波情報等の収集を開始 利用者の点呼 使用・持ち出しする資器材・備品等の準備	各班の役割分担を確認 地震情報、津波情報等の収集を指示 利用者の点呼を指示 使用・持ち出しする資器材・備品等の準備を指示	各班の役割分担を確認 地震情報、津波情報等の収集を開始(適宜情報収集)	各班の役割分担を確認 利用者の点呼を実施 使用・持ち出しする資器材・備品等の準備開始
津波情報の確認 避難の実施 者の家族等への避難連絡	津波注意報・津波警報等の確認 津波に対する避難先への避難を指示/使用・持ち出しする資器材・備品等の搬出を指示	津波注意報・津波警報等の伝達 津波に対する避難先への避難誘導 利用者の家族等への避難連絡の実施 地震情報、津波情報等の情報収集(随時)	津波に対する避難先への避難誘導/使用・持ち出しする資器材・備品等の搬出
利用者の点呼、体調管理	利用者の点呼、体調管理等を指示	地震情報、津波情報等の情報収集(随時)	利用者の点呼、体調管理等を実施
後発地震と浸水に備えた避難所への事前避難 避難所への避難誘導 利用者の家族等への連絡	津波注意報・津波警報等の解除の確認、後発地震への備えを判断 避難所への避難誘導の判断・指示	津波注意報・津波警報等の解除の伝達 地震情報、津波情報等の情報収集(随時) 後発地震に備えた避難先への避難誘導 利用者の家族等への避難連絡の実施	後発地震に備えた避難先への避難誘導
		避難開始(次の地震に備えた避難)	
		避難完了(次の地震に備えた避難)	

地震は突然やってきます。平常時に事前準備できることを想定しましょう。

津波浸水区域外の避難所への避難行動を想定しましょう。近くにない場合には、緊急で避難できる「区域外の高台」や「津波避難ビル」への避難行動等を想定しましょう。

緊急的に避難を実施した場合、次の地震に備えて、津波浸水区域外の避難所への避難行動を想定しましょう。

・震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
 ・津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
 ・津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
 ・津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。
 ・津波警報・注意報の解除後も次の地震が発生する可能性がありますので、地震発生に注意しながら、地震への備えを再確認しましょう。

防災情報HP

避難訓練について

◇日時: 令和○年○月○日 ◇場所: ○○○室

◇参加者: _____

進行: _____ 記録: _____

(総括) ○○

各担当者: (情報班) ○○、○○ (避難誘導班) ○○、○○、○○

※記載例に示す班構成は、イメージです。施設で作成した避難確保計画に応じて、それぞれ設定してください。